

# 広報記事で見る2004



まちの広報紙「広報ひの」。毎月20日に発行し、皆さんの手に届けられています。今年も多くの人に支えられながら作ることができました。広報紙は、地域の元気な姿や活動ぶりを紹介しながら「まちづくり」について皆さんに考えてもらおうと、毎月特集記事などを企画しています。

このページでは、平成16年の主な記事を紹介しながら1年を振り返ります。

より親しまれる広報紙を作るため、皆さんのご意見ご要望をお寄せください。広報ひのはこれからも「地域のオンリーワン」広報紙を目指します。

役場企画振興課（電話 72-0332）

March

03



記事 男女共同参画社会を考える  
 まちは、男女が互いに社会の対等なパートナーとして、尊重し合える社会の実現に向け「男女共同参画プラン」を作りました。男女の役割について聞いた意識調査では、7割を超える人が家事分担は女性と答えました。

February

02



記事 地産地消をめざす  
 地元の食材を給食に。2年前から地産地消に取り組んでいる学校給食を取材。地元の食材を使った給食は生産者の顔が見え「安心して安全」。給食は「食」と「健康」を学ぶ大切な場として深く結びついていました。

January

01



記事 地域の自立（下巻）  
 自分たちの手で地域を自立させようと、様々な活動に取り組む「菅福元気邑」を取材。かさ踊りや厄よけ行事「ホトホト」など伝統文化の伝承や温泉水を活用し、活性化を目指す阿部達範さん（福長）を紹介しました。

June

06



記事 市町村合併に結論  
 江府町と進めてきた合併協議は、6月に開かれた協議会で「廃止」。まちは自立の道を進むことになりました。これまで合併協議してきた内容や合併中止となった経過を説明。自立に向けて町長、議長の考えを聞きました。

May

05



記事 山岳写真家 田淵行男  
 山岳写真の第一人者、高山ちょうの研究家として知られる故・田淵行男さんは日野町出身。来年、生誕100年を迎えることから、故郷である日野町での作品展が実現しました。田淵さんの人物像や作品などを紹介しました。

April

04



記事 まちのお金の使い道  
 今年度のまちづくりに使われる予算の内容を紹介。厳しい財政状況を再認識し編成した一般会計当初予算額は37億700万円。福祉・健康づくりに関する民生費8億6044万5千円。その他に各課別の主な事業を紹介しました。

## 2004 の表紙

手にとって開いてください「広報ひの」



過去の広報紙は役場企画振興課にあります。  
ホームページでもダウンロードできます。  
<http://www.town.hino.tottori.jp/>

### September 09



#### 記事 犯罪から身を守る

家族の名を語るオレオレ詐欺、根拠のない請求を送りつけてくる架空請求、巧妙な手口の悪質商法などの被害は全国的に深刻な問題となっています。詐欺に遭わないためには、どうすればいいのか。県内の被害実態など黒坂警察署、消費生活センターで取材しました。

### August 08



#### 記事 ねう祭り

真夏の夜を彩る恒例の「ねう祭り」を複数の写真で紹介。その他に鶴の池マラソン大会、郡民体育大会の様子を紹介しました。また、島根県で開かれた全国高校総体ソフトテニスの部に出場した小林秀訓さん(上菅)を取材しました。

### July 07



#### 記事 子どもたちの成長

1週間、合宿所から学校に通う通学合宿を取材。6泊7日の集団生活を通して子どもたちは、家族と自分、友だちと自分、これからの自分を考えることで自分探しをしました。子どもたちの姿、生きる力などについて考えました。

### December 12



#### 記事 長楽寺の仏像

町内にはすぐれた史跡や文化財などがたくさんあります。その中でも長楽寺(下榎)には、国の重要文化財に指定されている薬師三尊(薬師如来、日光・月光菩薩)、毘沙門天、不動明王の仏像があります。全国でも指折りの傑作ともいわれる仏像を紹介しました。

### November 11



#### 記事 鴛鴦(オシドリ)

晩秋から春にかけて飛来するオシドリ。昨年は900羽以上、来観者は1万7500人を突破しました。まちが誇る観光スポットのオシドリ観察。飛来の始まりから今に至るまでの経過や支援する人々、広がる交流や地域の輪、オシドリの魅力などを紹介しました。

### October 10



#### 記事 消えゆく職人(コア職人)

屋根瓦の下に敷き、家内の湿気を吸い屋根を守る薄い木の板「コア」。以前は多くの職人がいましたが、県下で中村庸一さん(三谷)だけになりました。昔からの技法を守り続ける職人を取材。作り続けた32年を紹介しました。